

平成 27 年度事業報告

平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

I. 事業の状況

1. 定期講演会の実施

定期講演会については、本年度は以下のように実施した。

・会場	全国 8 ヲ所
・開催回数	55 回
・来場者総計	2,116 名

・収入	1,230 千円
・支出	9,786 千円

定期講演会 8 会場の詳細は次のとおり。

① 東京会場（原則として毎月第 2 及び第 4 土曜日午前 10 時より大手町ビル 513 号室）

- ・実施回数 19 回
- ・来場者 1,350 名

（以下敬称を略します）

4 月 25 日	浅見 洋 鈴木大拙を読み直す－禅と日本文化
5 月 9 日	蓑輪 顕量 上座仏教の瞑想から大乘仏教の瞑想へ －その共通性
5 月 23 日	小野寺 功 鈴木大拙を読み直す－日本的霊性
6 月 13 日	西田正法 『縁と絆』－師の生き方に学ぶ－
6 月 27 日	菅原伸郎 鈴木大拙を読み直す－妙好人
7 月 11 日	今西順吉 漱石の『心』について
9 月 12 日	伊藤 益 萬葉集と仏教
9 月 26 日	奈良康明 悟りと浄土－「仏への道」と「仏の道」
10 月 10 日	重松宗育

禅僧が読む外国文学－愛別離苦を超えて

10 月 24 日	本多弘之 悟りと浄土－「大乘の涅槃」と「大悲の本願」
11 月 14 日	阿満利磨 悟りと浄土－念仏と「真心」
11 月 28 日	藤本浄彦 悟りと浄土－智慧と慈悲：法然
12 月 12 日	木村清孝 悟りと浄土－華嚴思想とさとりの世界
1 月 9 日	佐藤研 悟りと浄土－イエスとその弟子たちとの場合
1 月 23 日	下田正弘 悟りと浄土－称名念仏の意味について
2 月 13 日	安富信哉 悟りと浄土－他力の救済
2 月 27 日	山折哲雄 悟りと浄土－確信の（小乗）と迷いの（大乘）
3 月 12 日	中野東禅 慈悲を問う －生存（苦）がある限り仏の悲智は輝く
3 月 26 日	田上太秀 慈悲を問う－相手の力となり身となる心

②大阪会場（原則として毎月第 4 金曜日午後 3 時より堂島アバンザ 14 階）

・実施回数	8 回
・来場者	309 名
4 月 24 日	吹田隆道 ブッダの覚りがもたらす宗教性 －仏教はなぜ原理主義に陥らないのか
5 月 22 日	奈倉道隆 未熟児の私が八十余年のいのちを頂く恵み
6 月 26 日	児玉識 光を仰いで－在家仏教協会創立者 加藤辨三郎翁に学ぶ仏教的生き方
9 月 25 日	乗元惠三 佛教に帰る－柳宗悦氏の場合
11 月 27 日	山田法胤 唯識の教え
1 月 22 日	北河原公敬 大仏さまにこめられた思い－一枝の草・一把りの土
2 月 26 日	幹栄盛

地獄と極楽

3月25日 西村恵信

白隠禅師坐禅和讃を読む

③ 名古屋会場 (原則として毎月第3水曜日午後1時30分よりいちご丸の内ビル9階)

・実施回数 8回

・来場者 182名

4月15日 衣斐弘行

いのちあるものへの慈しみ

5月20日 加藤祐伸

女性のすくい

6月17日 亀井鑛

人間の根っからな思い違い

9月16日 青山俊董

一步一步を正念場として

10月21日 田辺和子

パリー仏教聖典に見られる釈尊とお弟子たちのお姿

11月18日 赤池憲昭

「死と生」をめぐる課題—日本の現況

2月17日 上沼雅龍

おかげさまのおかげさま

3月16日 柴田悟

本願念仏の救い

④ 福岡会場 (原則として毎月第4金曜日午後3時より福岡センタービル9階)

・実施回数 8回

・来場者 127名

4月24日 太田心海

信心の社会性

5月22日 田畑正久

仏教の教える「救い」とは

9月25日 藤谷知道

「信」の仏道

10月23日 村上大朗

「疑謗を縁として」

—参会者からの“声”をいただいて

11月27日 藤本至誠

阿弥陀さまのサイン

1月22日 菊城淳真

浄土教からみる仏教の葬送儀礼

2月26日 神原玄應

ご縁に感謝

3月25日 平兮宗賢

隋処に主となる—今を生きる

⑤ 防府会場 (第2水曜日午後1時30分より防府市地域協働支援センター2階)

・実施回数 3回

・来場者 32名

5月13日 中村棟俊

空をどうとらえるか—般若心経の教えをふまえて

9月9日 香川孝志

まことの宗教—仏教と他宗教のちがいを

11月11日 森江俊孝

『菩薩の行願』に生きる

⑥ 宇部会場 (第2金曜日午後1時30分より宇部市文化会館ほか)

・実施回数 3回

・来場者 50名

9月11日 長岡裕之

儂い人生に仏に会う

11月13日 波佐間正己

仏道の完成は死後でなく、生きている今

3月11日 有福孝岳

救済と誓願—四諦八正道と四弘誓願

⑦ 札幌会場 (第3金曜日午後3時より札幌パークフロントビル4階)

・実施回数 3回

・来場者 29名

7月17日 石飛道子

よりよく生きる—サーレツヤカ経を読む

9月18日 高畑俊孝

平安仏教から鎌倉仏教への変遷について

3月18日 巖城孝憲

歎異抄と現代

⑧仙台会場（第2金曜日午後2時より仙台橋本ビル9階）

- ・実施回数 3回
- ・来場者 37名

4月10日 佐々木邦世
よみがえる平泉の宗風—如意輪観音、今に

7月10日 華園聰磨
善人と悪人—法然上人と親鸞聖人のおしえ

11月13日 丸田善明
心を弘誓の仏地に樹て—主体的人格を獲得するために

2. 各種行事の実施

各種行事については、本年度は下記の行事を実施した。

在家仏教坐禅の会

平成27年11月9日
曹洞宗大本山總持寺。参加者23名。

3. 出版物の刊行

出版物の刊行については、本年度は以下のように実施した。

- ・収入 9,146千円
- ・支出 34,229千円

①月刊誌『在家佛教』

毎月1回発行、A5判100頁

【5月号】

佐藤良純	卷頭言 南無阿弥陀仏
橋本純信	行雲流水 これからの寺院のあり方
奈倉道隆	いのちの宗教・いのちのケア —智慧と慈悲に導かれる医療と介護
本多弘之	鈴木大拙を読み直す 英訳「教行信証」
石上善應	共生の実践
菅原伸郎	南無善財 早朝の散歩
野呂昶	「八ヶ岳縄文詩抄」獣面深鉢（二）
奈良康明	法句経に学ぶ（35）
森和也	釈尊の悟り、そしてその後 神儒仏の江戸時代（17）
富田富士也	《戒律復興》という原点回帰の運動 人に子どもに“光”あれ（53）
山崎真	「たやすく」忘れてしまう子どもの心 俱律究（78）新スタイルの時計とパソコン 昼下がりの寺院にて —ミャンマー・パゴ

【6月号】

下田正弘	未来の記憶
加藤みち子	「人とのかかわり」を仏道修行に

大河内秀人
本多静芳
重松宗育
石上善應
菅原伸郎
黒川文子
野呂昶
奈良康明

森和也

富田富士也

神田忠

山崎真

【7月号】

日野原重明
佐藤弘夫
山口しのぶ

山折哲雄

岩田啓靖
石上善應
菅原伸郎
野呂昶
奈良康明
濱田英作

森和也

富田富士也

神田忠
山崎真

【8月号】

中村文峰
末廣久美
八木誠一
藤谷知道
加藤辨三郎
石上善應
菅原伸郎
野呂昶
奈良康明

森和也

富田富士也

信仰が築く平和
まことの念仏信心—世間を相対化する人格成
鈴木大拙を読み直す 『大拙 禅を語る』
心月輪 一百四十五箇條問答（38）
南無善財 政治と宗教
四季の仏教行事 智積院の常楽会
「八ヶ岳縄文詩抄」エピローグ
法句経に学ぶ（36）汝らは務めよ。
仏は法を説くのみ
神儒仏の江戸時代（18）
《雅》という場における交歓（一）
人に子どもに“光”あれ（54）
関心を寄せることに一歩踏み出せた父親
俱律究（79）ネット動画
見て楽しむ、投稿で稼ぐ
砂曼荼羅の世界—
ラダック・スピトクゴンパ

宗教の壁を超えた交流
カミの消えた風景
ネパールの人々と仏教
親鸞の「一人」、放哉の「一人」
人口減少時代に生きるモデルを求めて
誰が為に鐘は鳴る
心月輪 一百四十五箇條問答（39）
南無善財 高野山にて
「八ヶ岳縄文詩抄」土鈴（一）
法句経に学ぶ（37）中道と現代（1）
宗教文化の交差点 時間追い剥ぎの話
神儒仏の江戸時代（19）
《雅》という場における交歓（二）
人に子どもに“光”あれ（55）
ただ者ではない自分の勇気に気づけた母親
俱律究（80）無人航空機ドローンの可能性
太公望の日常
—中国・洛陽

疎水と虎—南禅寺横描—
辞典を読む
鈴木大拙を読み直す「禅問答と悟り」
「悲」の時代—阿弥陀の喪失—
仏教を聞く者たちのために
心月輪 一百四十五箇條問答（40）
南無善財 愚行の歴史
「八ヶ岳縄文詩抄」土鈴（二）
法句経に学ぶ（38／最終回）
中道と現代（2）
神儒仏の江戸時代（20）
仏教の徳目としての《孝》
人に子どもに“光”あれ（56）
「のらりくらり」な自分を愛しく

思えた母親
俱律究 (81)
2015 年上期ヒット商品番付から
祭りの記憶 —ネパール・パタン

神田忠
山崎真
【9月号】
佐々木恵精
大河原眞美
長谷川洋介
田上太秀
山下秀智
市川幸佛
石上善應
菅原伸郎
野呂昶
森和也
富田富士也
神田忠
山崎真
【10月号】
藤本浄彦
鈴木隆泰
長谷正當
竹村牧男
黒崎浩行
石上善應
菅原伸郎
野呂昶
森和也
富田富士也
神田忠
山崎真
【11月号】
東 隆眞
千石真理
西川和榮
松平實胤
浅見 洋
黒川文子
濱田英作
菅原伸郎
石上善應
野呂昶
森和也

グローバル倫理と仏教
アーミッシュの人々
マインドフルネスのすすめ
ここに幸あり
鈴木大拙を読み直す「浄土系思想論」
祈りのない宗教—浄土真宗
心月輪 一百四十五箇條問答 (41)
南無善財 天女と清浄
「八ヶ岳縄文詩抄」土鈴 (三)
神儒仏の江戸時代 (21)
中央と地方／改革と反改革
人に子どもに“光”あれ (57)
知らぬまに母に先を越されていた息子
俱律究 (82) 最後のWindows 登場
海と共に生きる人々
—インド・トリヴァンドラム

宗祖への思い—日本仏教の切り口
<ありがとう>と<あたりまえ>
鈴木大拙を読み直す
「仏教における浄土教理の発達」
良寛さまの禅の心
まつりの力
心月輪 一百四十五箇條問答 (42)
南無善財 方便の授業
「八ヶ岳縄文詩抄」土鈴 (四)
神儒仏の江戸時代 (22)
鎖国の時代の日中交流
人に子どもに“光”あれ (58)
声なき声が聞こえてきた母親たち
俱律究 (83) 大学講座で生涯学習
花の舞う婚礼—インド・カーニャクマリ

「仏様のおかげ」
日常に根ざす仏教をめざして
聞光力
人生ラスト10年の生き方
鈴木大拙を読み直す「禅と日本文化」
広河原の松上げ
お調子者の群像
南無善財 祈りと行動
心月輪 一百四十五箇條問答 (43)
しんしんしんしん
神儒仏の江戸時代 (23)
西洋が三教に与えた衝撃 (一)

人に子どもに“光”あれ (59)
離婚を固めつつも離婚しなかった
DV被害者
俱律究 (84) Apple のペンとテレビ

富田富士也
神田忠
山崎真
【12月号】
柴田文啓
佐藤雅彦
和田重良
亀井鏡
小野寺 功
ケネス田中
石上善應
菅原伸郎
森和也
富田富士也
野呂昶
神田忠
山崎真
【1月号】
渡邊 寶陽
枝木美香
末本弘然
義輪顕量
菅原伸郎
アーカイブス
野呂昶
石上善應
森和也
富田富士也
神田忠
山崎真
【2月号】
安富信哉
岡本亮輔
高橋哲秋
石飛道子
野呂昶
石上善應
菅原伸郎
森和也

標高四千メートルの寺院
—チベット・ガンデン寺

第二の人生は僧侶に
末期がん患者の声と宛名のない手紙
若者と「宿題」
人間の根っからな思い違い
鈴木大拙を読み直す
「日本的靈性」とキリスト教
対話と争い—宗教間の関係はどうあるべきか
心月輪 一百四十五箇條問答 (44)
南無善財 遍在する神
神儒仏の江戸時代 (24)
西洋が三教に与えた衝撃 (二)
人に子どもに“光”あれ (60)
祖母の自殺を恐怖からつながりに変えた衝撃
ふくろう
俱律究 (85) 宗派のホームページ
旅の記憶
—ラオス・ルアンパバーン (1)

成道会を迎えるころ
正義のための戦争って、やっつけていいこと？
老病で知った“愚か者”の人生観
上座仏教の瞑想から大乘仏教の瞑想へ
—その共通性—
鈴木大拙を読み直す「妙好人」
座談会・仏教者はかく思う
ほたるぶくろ
心月輪 一百四十五箇條問答 (45)
神儒仏の江戸時代 (25) 死者との交流
人に子どもに“光”あれ (61)
「いじめ」と思いたい心に気づいた少年
俱律究 (86) 2015 年の流行語

今月の表紙 プーシーの丘
—ラオス・ルアンパバーン (2)

相応の智慧
聖なる旅で日常と出会う
生死の中の仏
より良く生きる—サーレツヤカ経を読む
いのちの清流
心月輪 一百四十五箇條問答 (46)
南無善財 総理の参禅
神儒仏の江戸時代 (26)
還俗という名の《投企》

富田富士也 人に子どもに“光”あれ (62)
民生委員で腹が決まったこと
濱田英作 宗教文化の交差点 二千年後の宴会風景
神田忠 俱律究 (87) 葬儀ビジネス活況
山崎真 トンパ文字の街ー中国・麗江

【3月号】

山崎龍明 法に依りて人に依らざれ
及川一晋 聖なる旅せ日常と出会う
小谷みどり お坊さんは何を期待されているか
太田心海 信心の社会性
吹田隆道 ブッダの覚りがもたらす宗教性
坂東性純 ー仏教はなぜ原理主義に陥らないのか
野呂和 信心は自覚
菅原伸郎 森の中ですきとおる
石上善應 南無善財 死を学ぼう
神田忠 心月輪 一百四十五箇條問答 (47)
森和也 俱律究 (88) ルアンパバーン訪問
富田富士也 神儒仏の江戸時代 (27)
山崎真 還俗という名の《投企》 (二)
人に子どもに“光”あれ (63)
背負いきった父親の子育て
カンチェンジュンガとの出会い
ーインド・ダーズリン

【4月号】

常磐井 鸞猷 貧苦を濟う
龍口恭子 清水寺、今と昔
渡邊愛子 優しい蚊取り線香
波佐間正己 仏道の完成は死後でなく、生きている今
乗元恵三 仏教に帰るー柳宗悦氏の場合
黒川文字 念仏堂の鬼走り
アーカイブス 座談会・われらこの道を往かん
野呂和 薔薇のかおりの夕ぐれ
石上善應 心月輪 一百四十五箇條問答 (48)
菅原伸郎 南無善財 旧作を観る
森和也 神儒仏の江戸時代 (28)
富田富士也 本地垂迹的思考法とキリスト教
濱田英作 人に子どもに“光”あれ (64)
神田忠 名付けた「障害」に別れを告げた女性
宗教文化の交差点 シールと漢字
山崎真 俱律究 (89) 日本でも「民泊」指導
今月の表紙
チベット少女との出会い
ーチベット・ラサ

②協会創立60周年記念書籍

「講演集・悲喜をよろこぶ」

「対談集・掌を合わせて生きる」

4. その他目的を達するために必要な事業

① 国公立図書館並びに大学図書館及び刑務所

「在家佛教」誌を毎月寄贈

② ホームページ改善

会員サイトの新設

③ ネットでの講演会動画配信

会員へのサービス向上

新規会員の獲得

④ 転載報告

公益財団法人 古代学協会

転載先：広報誌『土車』第128号

転載文：明治のをみな

「在家佛教」1996年8月号

著者：角田文衛

株式会社 国書刊行会

転載先：仏典に耳を澄ませ、菩薩に学び、

優しさを知る

転載文：優しさの原点を探る

「在家佛教」1985年11月号

大麦とサルと人間

「在家仏教」2001年8月号

対立を超えるために

「在家仏教」2010年4月号

明治治期の新仏教運動に学ぶ

「在家仏教」2011年7月号

「殺すな！」(不殺生)の意味

「在家仏教」行雲流水

著者：菅沼 晃

株式会社 ノンブル社

転載先：妙好人、浅原才市を読み解く

転載元：鈴木大拙を読み直す「妙好人」P47写真

「在家佛教」2016年1月号

著者：菅原伸郎